

「楽しくしゅら」 楽習「コラム」

内田伸子先生からの
子育て応援メッセージ

「なるほど！ザ・脳の育ちで
安心子育て」編

親がいくら教えても、子どもがその通りにできないときは
できないものです。子どもが親の言うことを聞かないのにも
理由があります。親にとってはマイナスに思えることも、
実は子どもが成長していくための大切なプロセスでもあるのです。

(内田伸子先生著書「子育てに「もう遅い」はありません」より)

「たのしく・あそぶ・まなぶ・そだつ」「楽習」
今号では、子どもの「脳の育ち」を軸に、子どもの成長のプロセスを
内田先生がやさしく解説してくださいませ。
脳の発達段階に応じた、折々の子ども姿がわかると、
子育ては一層楽しいものになることでしょう。

男の子の「モジモジ」は 脳のせい

男の子と女の子では「脳」の
発達の速度が違います。
言葉を司る脳、「左脳」の発達
は男の子より女の子のほうが早
いのです。女の子は早い段階
で「こんにちは」「ありがとう」と
言えるようになるので、しっか
りしているように見えるのです。
男の子は左脳と右脳がほぼ同
じ程度に発達するので、女の子
の左脳と比べるとやや遅れてい
ます。

そのため、また言葉でうまく
言い表せずに、黙ってモクモク
と遊んでいたりと「挨拶は？」と
言われてもモゴモゴと口ごもっ
たりするわけです。

このときに「しっかりしなさい
ー」という言葉をかけると、
男の子は追い詰められて、まっ
ます自信をなくしてしまいます。
言えないことを取り上げて叱る
のではなく、モゴモゴと挨拶を
しても、「挨拶できたわね」と
認めて、自信をもたせてあげて
ください。

女性は、右脳と左脳をつな
ぐ脳梁という部分が男性よりも
太いので、左右の脳を使って話
をするとも言われています。こ
のため、女性は感じたことをス

ムーズに言葉にできるのです。
おそらく、男性に口下手が多い
のは、脳の発達の性差に関係し
ているのかもしれない。

「男の子(女の子)はこうあるべ
き」という固定概念にしばられ
ず、長い目で子どもの成長を見
守ってほしいと思います。

4歳児は 恥ずかしがり屋

子どもはずっと同じスピード
で成長するわけではありません。
行きつ戻りつを繰り返します。
3歳になり、自己主張もはっ
きりするようになり、ひとり
考えて行動できるようになっ
たかと思えば、4歳になると周り
の視線を気にしたり、恥ずかし
がったりするようになります。

それまで活発に見えた子ども
が急に引込み思案になったよ
うで、心配になるかもしれませ
んが、これも成長していること
のあかしです。

私が保育園や幼稚園で子ど
もと面接しようとする時、3歳
児はハッキリと「いいよ」「嫌」と
自己主張し、5歳児は「行って
あげてもいいよ」とこちらの気
持ちをくんでくれます。

4歳児は「一緒に来てくれ
る？」と誘うといいとも悪いと
も言わずモジモジしています。

そこで実験室に連れて行くと泣
き出したりします。4歳児は恥
ずかしがり屋さんなのです。
そうした4歳の過ごし方は重要
です。

恥ずかしがり屋の4歳児は、
人前で何かを試したり、失敗し
たりするのを嫌がり少し慎重に
なります。「ほら、みんなも縄
跳びやってみようよ？ やって
みなさい」というように無理強
いするのは禁物です。失敗を恐
れて引込み思案になってしま
うかもしれません。

子どもがやってみたいと思っ
たまで待つていれば、自分でこっ
そり練習して、納得がいっただ
ころで見せてくれるでしょう。
そのときがくるまで、待つこと
です。そしてその子どもの努力
を認めて「がんばったね」「よく
できたね」とほめてあげましょ
う。

この言葉に、子どもは達成感
や、やり遂げた喜びを再確認す
るはずです。

物事のルールがわかる のは5歳から

子どもがコップを割ってし
まったとき、つい大人は「触っ
ちゃダメって言ったのに、どう
して触ったの」と問いただして
しまいがちです。



お話をお聞きしたのは

内田伸子先生

十文字学園理事・十文字学園女子
大学特任教授、筑波大学客員教授、
お茶の水女子大学名誉教授、学術
博士。発達心理学、認知心理学、保
育学を専門とする。著書に『子育て
に「もう遅い」はありません』(富士
房インターナショナル)など多数。



